

# 防災とジェンダー平等

## —誰も取り残さない—

令和7年1月30日（木）  
@滋賀県男女共同参画審議会

（特活）男女共同参画をすすめる会IYOU淡海 理事  
滋賀県立大学男女共同参画アドバイザー  
滋賀県防災会議委員

勝身 真理子



# 主な動き～阪神・淡路大震災から30年～

1995年	<a href="#">阪神・淡路大震災</a>	1994年	第1回国連防災会議（横浜市） 「横浜戦略」⇒防災に女性の参加を
2005年	防災基本計画の策定 ⇒ <b>男女双方の視点・女性参画</b> 第二次男女共同参画基本計画⇒ <b>防災・復興</b>	2005年	第2回国連防災会議（神戸市） ＜兵庫行動枠組＞あらゆる災害のリスク管理の政策・計画の意思決定にジェンダーの視点を
2011年	<a href="#">東日本大震災</a> 復興基本法 ⇒ <b>女性・子ども・障害者等多様な視点の反映</b>		
2013年	男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針（旧版） 避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針⇒ <b>女性視点が入る</b>	2015年	第3回国連防災世界会議（仙台市） ＜仙台防災枠組＞すべての政策や実践にすべてのステークホルダー参画。ジェンダーの視点、年齢、障害や文化の観点を含め、女性や若者のリーダーシップを高める
2016年	<a href="#">熊本地震</a> 避難所運営ガイドライン ⇒ <b>女性のリーダーシップの重要性</b>		
2020年	災害対応力を強化する女性の視点 男女共同参画からの防災・復興ガイドライン（新版） ⇒ <b>第五次男女共同参画基本計画</b>		＜防災基本計画＞ ・女性、高齢者、障害者など意見反映・参画拡大 ・被災時の男女のニーズの違いに配慮 ・女性の参画拡大（避難所運営・自主防災組織・復旧・復興のあらゆる組織、災害対策本部） ・常時・災害時における防災担当部局と男女共同参画部局が連携、役割の明確化（センター含む）
2024年	<a href="#">能登半島地震</a> 防災基本計画の改定⇒ <b>多様性</b>		

## <調査で明らかになったこと>

災害時の課題	背景にある課題
避難所の運営において女性や多様な人々のニーズが十分に把握されていなかった	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民組織の長に女性が圧倒的に少なく、平常時から女性が発言しにくい状況があった</li><li>・男女共同参画の視点の防災対策が行われていなかった</li></ul>
避難所における炊き出しなどの労働は、主に女性が長時間にわたり無償で担っていた	<ul style="list-style-type: none"><li>・被災自治体のほか管理職、応援派遣された自治体職員の中で女性が非常に少なかった</li></ul>
震災の影響のみならず家族・親族のケアのために出勤できず失職した女性が見られた	<ul style="list-style-type: none"><li>・平常時の「仕事」における女性の脆弱性が想起される</li></ul> ※能登地域は、女性の就労率は高いが、女性は男性より「パート・アルバイト」や「家族従事者」の比率が高い。

すべての課題に通底＝無償ケア労働とジェンダー・バイアス
<ul style="list-style-type: none"><li>・無償ケア労働（家庭内で行われる家事・育児・介護・看護など）の女性への著しい偏り</li></ul> ※インフラ破壊や介護・保育サービスの停止、高齢な家族・親族の二次避難の受入れ ⇒日常的なケアに加えて、病院の付き添いや各種手続きなどに多くの時間と現金を持ち出している
<ul style="list-style-type: none"><li>・女性の無償ケア労働を「当たり前」とする平常時からの性別役割分業意識（＝ジェンダー・バイアス）</li></ul>

彩りあふれる  
能登の復興へ

令和6年能登半島地震の  
女性の経験と思いに関する  
ヒアリング調査

2024年4月25日

フラはなの会

公益財団法人ほくりくみらい基金  
減災と男女共同参画研修推進センター  
公益財団法人みらいRITA  
(YUIみらいプロジェクト)

女性たちの  
生の声の可視化

女性たちが、どのような経験をしてきたのか、どのような復興の姿が望まれているのか  
その記録を復興過程に反映する

# 被災経験から見る女性の困りごと

－災害時には、平常時の課題が浮き彫りに

## 1 生活環境

- ・プライバシー
- ・衛生状態
- ・乳幼児、障害者など居づらい

## 2 治安・暴力

- ・女性と子どもへの暴力、DV
- ・性被害（子ども、幅広い年代の女性）の多発

## 3 物資不足

- ・女性用品
- ・育児・介護用品
- ・アレルギー疾患の物資や食料

## 4 心身の健康

- ・女性特有の病気に（膀胱炎・外陰炎など）
- ・鬱傾向

## 5 固定的な性別役割分担意識が強化

- ・ライフラインの停止で家事が重労働
- ・福祉・医療・子育てサービスの機能停止で家族ケア負担も過酷に
- ・「炊き出しは女性が当然」が過重に

## 6 働くこと・収入

- ・女性は非正規雇用が多く解雇リスクが高い
- ・家族ケアが増大。働きたくても働けない女性が増加
- ・母子世帯は、貧困に陥りやすい

## 7 意思決定に関わる男女格差

- ・責任者や委員の大半が男性
- ・復興アンケートは世帯主宛で、女性や若者の意志が反映されにくい

## 8 家庭・地域での人間関係

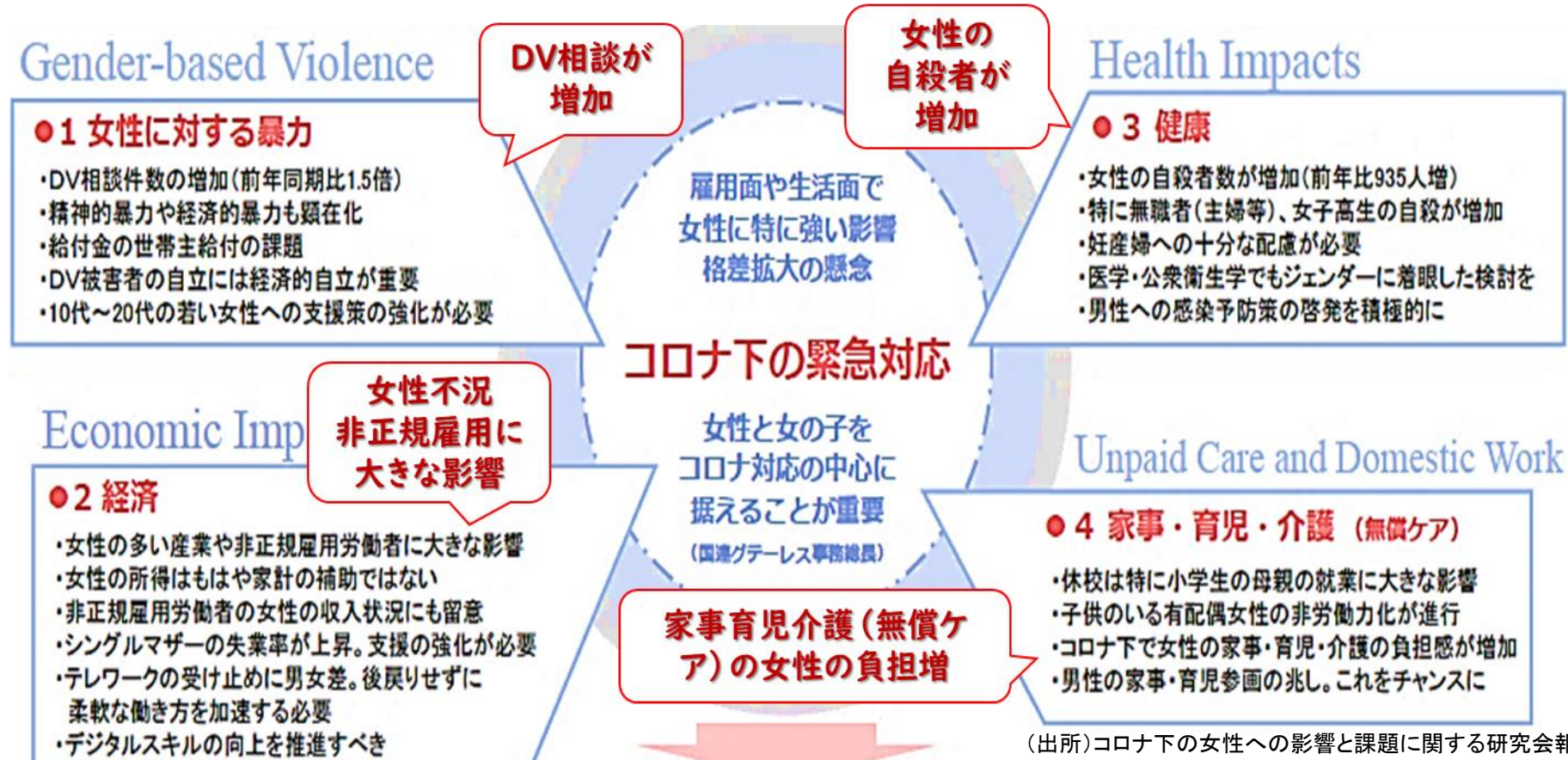
- ・男性の孤立、引きこもり、不慣れな介護の問題
- ・DV・児童虐待、住宅再建等をめぐる家族関係
- ・復興後のコミュニティのあり方



# コロナ禍でも平時のジェンダーギャップ（男女格差）が浮き彫りに

・新型コロナウイルス感染症の拡大は男女で異なる影響。女性の非正規雇用労働者の減少や自殺者数の増加など女性への深刻な影響が明らかに。平時においてジェンダー平等・男女共同参画が進んでいなかったことがコロナの影響により顕在化。

今こそ幅広い政策分野でジェンダー視点を入れた政策立案が不可欠。女性に焦点を当てて、我が国の課題を明らかにし、既存の制度や慣行の見直しを



# 災害時に女性が受ける影響は平常時のジェンダー課題が顕在化

世界の大規模自然災害の発生件数は約1.7倍に増加（1980年～1999年／2000年～2019年）。  
女性は、災害発生時、避難生活時、復旧・復興時と様々な局面でより困難な状況に置かれがち。

## （災害発生時）

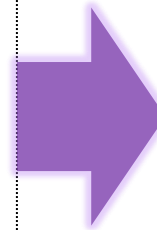
乳幼児や高齢者等を保護しながら逃げるため、避難が遅れる傾向がある。男性の死者数よりも女性の死者数が多い

## （避難生活時）

更衣室や授乳室等のプライバシーの確保、生理用品や下着、授乳用品等の物資面のニーズが満たされない／避難所での清掃や炊き出し等の無償ケア役割が女性に偏る／セクシュアルハラスメントや性暴力の被害に遭うリスクが高まる

## （復旧・復興時）

女性の方が復職しづらい状況が続くなど長期にわたる負の影響



## 災害対応・防災の

### 政策決定プロセスへの女性の参画

災害に強いコミュニティづくりに不可欠  
ー 地方防災会議における女性委員の割合が高い  
ほど災害に対する備え・多様なニーズに応じる  
備蓄が十分

### 固定的な性別役割分担意識を

#### 平時からなくす

- ・ 平常時から責任を分かち合う
- ・ 特定の役割が特定の性別に偏らない
- ・ 家庭や地域でのケア労働を分担し協力し合う

# 災害対応力を強化する女性の視点

－男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン（令和2年5月 男女共同参画局）

## 7つの基本方針

### （1）平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる

男女共同参画の視点を取り入れた防災・復興体制、平常時から男女共同参画社会の実現に向けた取組推進

### （2）女性は防災・復興の「主体的な担い手」である

意思決定の場や防災の現場に女性の参画を拡大、女性活躍を支援、男性の意識改革の推進

### （3）災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する

災害からの影響・ニーズは女性と男性で異なることを認識、女性の中の多様性に配慮、男女別に統計やデータを集め、活用

### （4）男女の人権を尊重して安全・安心を確保する

女性と男性の人権を尊重、特に避難生活における女性と男性の安全・安心を確保

### （5）女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する

民間との連携、平常時から連携、広域的に連携、都道府県の男女共同参画部門・男女共同参画センターの役割

### （6）男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける

男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を避難所運営マニュアル等に位置付ける

### （7）要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する

平常時に要配慮者対応に関わる女性の専門職等の意思決定への参画を促進、災害時の要配慮者対応においても女性と男性の違いを認識する



## 段階ごとに取り組むべき事項

<p>平時の備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の体制と研修</li> <li>・ 地方防災会議</li> <li>・ 地方防災計画の作成・修正</li> <li>・ 避難所運営マニュアルの作成・改定</li> <li>・ 応援・受援体制（女性職員の積極的な受入れ・派遣）</li> <li>・ 物資の備蓄・調達・配布</li> <li>・ 自主防災組織</li> <li>・ 災害に強いまちづくりへの女性の参画</li> <li>・ さまざまな場面で災害に対応する女性の発掘</li> <li>・ 女性団体をはじめとする市民団体等との連携</li> <li>・ 防災知識の普及、訓練</li> <li>・ マイ・タイムラインの活用促進</li> <li>・ 男女別データの収集・分析</li> </ul>	<p>防災担当職員の男女比を、庁内全体の比率に</p> <p>訓練・研修等は、防災・危機管理部局と男女共同参画部局・センターが連携を</p> <p>地方防災計画に、ガイドラインの反映を。男女共同参画部局・センターの役割を明記</p> <p>避難所運営マニュアル、応援・受援計画、物資の備蓄・配布に女性・男女共同参画の視点を</p> <p>地方防災会議の女性委員の割合を高める</p> <p>自主防災組織のリーダーに複数の女性を</p> <p>男女別データの収集・分析を行い、平常時から災害対応、復旧復興期に至るまで生かす</p>
<p>初動段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難誘導</li> <li>・ 災害対策本部</li> <li>・ 災害対応に携わる女性職員等への支援</li> <li>・ 帰宅困難者への対応</li> <li>・ 女性に対する暴力の防止・安全確保</li> </ul>	<p>災害対策本部に女性職員を配置</p> <p>支援者の子育て・介護支援</p> <p>女性職員の安全・安心な支援活動</p> <p>妊産婦・乳幼児の安全な避難誘導と介助</p> <p>暴力の予防（女性専用スペース、巡回など）</p>



**避難生活**

- ・ 避難所の開設・運営管理
- ・ 避難所の環境整備
- ・ 要配慮者支援における女性のニーズへの対応
- ・ 在宅避難・車中泊避難対策（要配慮者も含め）
- ・ 災害関連死の予防
- ・ 物資の供給
- ・ 保健衛生・栄養管理
- ・ 避難所の生活環境の改善
- ・ 子どもや若年女性への支援
- ・ 市町村域等を越えた避難生活

自主運営の責任者に、女性が少なくとも3割

プライバシーの十分に確保された間仕切りなど写真を交えて擬態的に提示

開設時から授乳室、男女別トイレ、物干し場、更衣室を。女性用品の配布は女性に。

子ども・若年女性の相談支援、安全確保

妊産婦や母子への目配り

衛生管理、感染症対策、栄養管理

**復旧・復興**

- ・ 復興対策本部
- ・ 復興計画の作成・改定
- ・ 住まいづくり  
（応急仮設住宅・復興住宅の提供と運営）
- ・ 復興まちづくり
- ・ 保健・健康増進
- ・ 生活再建のための生業や就労の回復
- ・ 生活再建のための心のケア

復興対策本部に女性を配置

復興計画の策定に女性参画。男女共同参画の視点を盛り込む

公営住宅の計画・設計に女性の参画

女性の雇用機会の確保

男女共同参画センターが行う相談業務を活用し、生活再建における心のケアを

# 「誰も取り残さない」防災へ

自然災害（豪雨・地震）の激甚化、新型コロナウイルス感染拡大など災害が複合化。高齢化や共働き世帯や単身世帯の増加など社会のありようが変化。従来の防災手法は限界。すべての人が災害対応の当事者。これまでの男性中心型の防災から女性をはじめとする多様な視点で、防災を見直し、一人ひとりが当事者として対応能力を高めることが重要

## **（１）ジェンダー視点による災害対応は、公平で多様性を尊重する包摂的な社会の形成につながる**

女性のみならず子どもや高齢者、障害者、LGBTQ+など多様な人々の人権の課題や、脆弱層を取り残す危険性への対応につながる

## **（２）女性は防災の主要な担い手。意思決定プロセスへの参画は災害復興や防災を効果的に推進できる**

ジェンダーの視点に立った計画、準備、災害対応は、災害による死亡率や偏った被害を減少させ、緊急援助物資の公平な分配、避難所の安全確保、さらにはより災害に強い社会の構築を可能とする

## **（３）女性のエンパワメントを通じて、社会全体の開発効果が高まる**

女性の意思決定の場への主体的な参画が促されることで、より平等なジェンダー関係の構築や女性のエンパワメントが促進され、社会全体の活性化を図るなど社会変革のきっかけにもなる

# 防災にジェンダー主流化を－実践への加速－

ジェンダー主流化とは、あらゆる分野でのジェンダー平等を達成するため、全ての政策、施策及び事業について、ジェンダーの視点を取り込むこと。特に防災分野では、多様性および社会的包摂の視点に立ち、ジェンダーに基づく多様なニーズに沿った、事前の投資、応急対応や復旧・復興支援を行うことが、より持続可能で災害にレジリエント（災害などのリスクに対する抵抗力や災害を乗り越える力）な社会実現につながる。

## ジェンダー主流化の5つのステップ

**（ステップ1） 社会・ジェンダー分析** 社会・ジェンダー分析を実施。具体的には、ジェンダー平等と女性のエンパワメントを推進する観点から関連政策や制度、組織、地域における男女の経験や課題、ニーズなどを確認・分析し、ジェンダー課題を抽出

**（ステップ2） 取組案・計画の策定** 抽出した課題に対する取組案を検討・策定

**（ステップ3） 指標の設定** 取組の成果を客観的に示すための定量的・定性的指標を設定

**（ステップ4） ジェンダー視点に立った実施・モニタリング** ジェンダー視点を取り込んだ実施体制の整備、取組・工夫の実施、成果やインパクト（事業実施による、計画していなかった正と負の影響）の発現状況をモニタリング

**（ステップ5） ジェンダー視点に立った評価** ジェンダー視点を取り込んだ活動・取組・工夫の実施、成果やインパクトを評価

# 滋賀県における女性の参画による防災力向上のための提言

@令和2年3月11日滋賀県における女性の参画による防災力向上のための提言

## 1 女性たちも地域防災の主体に

- ・防災分野の女性リーダーの育成。ネットワークづくり
- ・防災会議等の女性参画の向上
- ・活動団体の認証制度や助成
- ・男性の意識改革（ジェンダーの視点を入れた防災講座、啓発資料など）

## 2 地域特性を踏まえた災害に強いコミュニティづくり

- ・地域特性を理解する。
- ・SNS等を通じた生活防災情報のプラットフォームづくり
- ・多様な人による地区防災計画づくり
- ・防災の要素を地域行事に取り入れる
- ・防災を軸とした地域コミュニティづくり
- ・複数の自治会が協働で広域に活動する

## 3 災害時に誰も取り残さない取組

- ・避難行動要支援者のための個別計画の策定、実証訓練のモデル事業
- ・要配慮者の支援ネットワーク
- ・避難生活の質改善。災害関連死を予防
- ・多様性に配慮。緊急支援から復旧・復興までの切れ目のない支援

## 4 多様な主体が地域防災の担い手に

- ・女性たちが参加しやすい防災学習・手法の調査・研究・実践。優良事例を広める
- ・体験・体感型防災学習の推進。子どもたちからの防災教育
- ・県内事業所において防災に関する啓発や実践



# 女性をはじめ多様な視点で考え・備える～平時と災害時をつなぐ～

## 防災プラスワン

女性をはじめ多様な人たちの立場・視点で考え、見落とししがちな課題とその対応策について学び、これからの防災対策を考える啓発カード集



### しが防災プラスワン ～女性の視点と多様性～

(Ver.2)



滋賀県知事公室防災危機管理局



### 出勤・出勤する人を支えよう

人材育成と  
支え合い



災害時には消防や警察、医療・福祉関係者、担当職員などは出勤・出勤しなければなりません。中には高齢の親や幼い子どもなど、世話が必要な家族を残し、不安な気持ちを抱えたまま出勤人もいます。また、非常時に家族を置いて出勤できないなどの理由により、意欲のある人たちが災害対応業務に就けないこともあります。

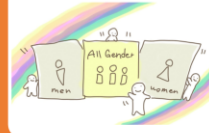
出勤する人の家族を預かったり、見守ったりする仕組みを地域で考え、構築しましょう。

- 安全な場所で、臨時的託児所などを開設する
- 出勤する人たちの家族を、支援者の自宅で預かる
- 出勤する人の留守宅で支援者が家族に付き添う



### LGBT<sup>※</sup>等の人でも安心して過ごせる支援を考えよう

健康・人権



男女いずれかという前提の被災者支援や避難所のレイアウトでは、LGBT等の方が更衣や排泄、医療措置等の場面で困難に直面することがあります。差別や偏見、周囲の無理解などから自分のセクシュアリティを隠さざるを得ない状態もあり、日頃から性の多様性について認識し、理解の深い人を増やしていくことが大切です。

日頃から、性の多様性について理解を深めるとともに、プライバシーに配慮した支援の在り方について考えましょう

- 性の多様性をテーマにした研修を普段から開いておく
- LGBT等の人とともに、防災について考える機会を持つ
- LGBT等の人でも安心して相談できる体制を整える
- 誰もが他人の視線を気にせず使えるプライバシー空間を設置する

※LGBTとは、多様な性のあり方を表す言葉のひとつです。

21

### やさしい日本語を活用しよう

暮らしの工夫



私たちの周りには、外国籍の方や高齢者、知的障害者、子どもなど、日本語の理解が十分でなかったり、専門用語や難しい言い回しが分からない人がおられます。多文化共生の面から多言語対応が求められていますが、世界には多くの言語があるため、すべての言語で表示をしたり、通訳する人を確保したりすることは現実には難しいです。できるだけわかりやすく情報発信を行う必要があります。

難しい言い回しや専門的な用語を簡単な言い回しに変えて伝える「やさしい日本語」を使用したり、絵や図など視覚的にわかるように表現したりすることで、外国籍の方だけでなく、高齢者や障害者、子どもたちなど、すべての人に分かりやすく情報を伝えることができます。「機械翻訳」などの翻訳する際も、わかりやすい日本語に直してから外国語に訳すほうが、意味が通じやすくなるようです。

(例)  
「避難」→「にげて」  
「土足禁止」→「くつをぬいで」  
「今朝」→「今日の朝」



8

### 家事シェアを実践しよう

在宅避難の工夫



日頃の家庭生活では、家事や子育て・介護などが女性に偏っている場合があります。さらに、そうした役割が、在宅避難で家にもこもってしまう状況では、女性に偏ってしまい、女性の負担感が増大してしまう場合があります。

旧来の性別役割分担意識（男性は仕事、女は家庭）にとらわれていないかをチェックし、日頃から、家事や子どもの世話などの分担について家族で話し合しましょう。

・家事や育児・介護に従事している時間の振り返り  
一日の時間の使い方や働き方の「現在」と「理想」を書き出し、キャリアに対する考え方や希望などを共有しましょう。



・家事や育児・介護などのシェア  
具体的な「すること」リストを作り、現在の分担割合を確認しましょう。また、「負担に感じているもの」「相手に助けほしいもの」「やめたいもの」がないかチェックしましょう。第三者の助けや、公的な支援、有料サービスなどの選択肢も視野に入れて、役割分担を見直しましょう。

7

### 女性も防災の主役になろう

地域防災の実践



「防災は力仕事が多いから女性には無理」という思い込みがあり、訓練等で女性には「炊き出し班」や「救護班」に回ることが多いようです。しかし、災害はいつ、どこで起きるかわかりません。その場に女性だけ（あるいは高齢者や子どもだけ）がいる場合を想定して、防災に関する多様なスキルを習得しておくことが重要です。

女性たちもより多くの防災に関するスキルを習得していきましょう。

- ハザードマップを読み解く
- 気象や防災に関する基礎知識や用語を知る
- 初期消火や応急手当の手法を学ぶ
- 担架やジャッキなどの扱いに慣れておく
- 初めての場所では避難経路を確認しておく



主体的に動き、指示が出せる女性防災リーダーを養成していきましょう。

35

### 女性が安心できる避難所運営を考えよう

避難所運営



授乳や着替えのスペースの確保、生理用品の配布方法など、個人のプライバシーを守る避難所運営が必要です。過去の災害においては、盗撮や体を触るなど女性や子どもが被害者となること多い性暴力の発生が見受けられます。

避難所運営組織に複数人の女性が参画できるようにしましょう。さらに以下のような工夫が求められます。

- 異性の視線が気にならない物干し場、更衣室、休憩スペースを設置する
- 女性用品（生理用品、下着等）は女性が配布し、女性トイレや女性専用スペースにも常備する
- 就寝場所や女性専用スペースなどの巡回監視、暴力を許さない環境づくり
- 防犯ブザーやホイッスルの配布
- 女性更衣室や授乳スペースなど、あらかじめどこに、どのようなスペースを設けるかを考えておき、必要な看板等を準備しておく

2

フェーズフリー防災  
身のまわりにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、非常時にも役立つようにデザインしようという考え方  
@（一社）フェーズフリー協会

# 女性の力を防災・減災に生かす（例）

## ① 男性リーダーへの理解の浸透

女性を一括りにしない。世代、既婚・未婚、子の有無など違いがある

## ② 女性・若者が参画しやすい体制づくり

会議の持ち方や時間等も工夫

女性だけで議論・意思決定し、取りまとめ・発表する機会づくり

## ③ 関心を持ちやすいテーマで。女性はまずは参加を

避難所レイアウト・運営、トイレ・衛生対策、在宅避難問題など

「女性も主体的に地域防災活動にかかわっていかないと災害時に自分や家族を守ることは難しい」ことを理解。

## ④ 女性も参画した実働型訓練を

- ・リーダー・サブリーダーの男女比を3割。できれば5割
- ・炊き出しに男性も入る。女性も、企画運営・進行・設備関係などを担当
- ・あえて男性だけの訓練。あえて女性だけの訓練も

## ⑤ 地域の顔の見える関係づくりを

もしものときに頼れるのは日ごろからの人的ネットワーク

## 新型コロナウイルス感染症パンデミックからの教訓

### 経済的エンパワーメントの推進

#### 構造的障壁に対する包括的なアプローチが必要

役員・管理職の女性の代表性の低さ、部門や職業による分離、無償のケア・家事労働の不平等な分配、あらゆる多様性を持つ女性に不利に働く人事・賃金制度、長きにわたる男女の賃金格差 など

#### 女性の起業支援

知識、教育、訓練、ネットワーク、資本へのアクセスを大幅に改善

#### STEM (科学・技術・工学、数学) 分野への理解とアクセスの促進

#### あらゆる多様性を持つ女性の仕事と雇用における安全・安心

職場におけるジェンダーに基づく暴力やハラスメントを防止。家父長的構造に対処することにコミット

### 社会の意識を変える

全ての男性は変革の担い手、共同受益者。ジェンダーに基づく固定観念・偏見から自由になり、ジェンダー不平等を永続させる規範、態度、行動に挑戦し、変える

### 無報酬のケア・家事労働の認識・削減・再配分とケアワーカーの支援

#### 無償のケア・家事労働の認識・削減・再配分

あらゆる多様性を持つ女性の経済的エンパワーメント、意思決定プロセスへの参加拡大、そして経済的安定と自立の強化に不可欠

#### ワークライフバランスの確保

- 柔軟な労働時間・休暇制度を改善し、男性の利用の促進
- 男性と男児が無償のケア・家事労働にさらに参加できるようにジェンダーに基づく役割・固定観念・偏見を打破

### 意思決定に女性の代表性を高める

より公平、包摂的、強靱な社会を構築するため社会のあらゆる分野における全ての女性の参加とリーダーシップを高める

### 性的・ジェンダーに基づく暴力への対応

- 切れ目のない分野横断的なシステムの確立
- テクノロジーに助長されるジェンダーに基づく暴力

### 性と生殖に関する健康と権利の推進

#### 包括的な性と生殖に関する健康と権利の実現

- \*リプロダクティブ・ヘルス/ライツ  
妊娠したい人、妊娠したくない人、産む・産まないに興味も関心もない人、アセクシャルな人（無性愛、非性愛の人）問わず、心身ともに満たされ健康にいられること
- \*プロダクティブ・ライツ  
産むか産まないか、いつ・何人子どもを持つかを自分で決める権利。妊娠、出産、中絶について十分な情報を得られ、「生殖」に関するすべてのことを自分で決められる権利

@独立行政法人国立女性教育会館



女性をはじめ誰もが当事者として  
発言し参画することは  
防災に多様性をもたらし  
当事者参加の道を拓き  
「誰も取り残さない防災」を実現する  
重要な足がかりになるもの

ご清聴ありがとうございました

## 在宅避難の盲点！？ 「わたし」「地域」のために何をしますか

コロナ禍以降、在宅を含む分散避難が推奨されていますが、

- ・停電や断水時、どうやって被災生活を乗り切りますか？
- ・どうやって在宅避難者の安否やニーズを把握しますか？



個人として、地域の一員として、男女共同参画の視点を踏まえながら考えましょう。

日時 令和7年2月11日(火・祝) 13:30-16:00(開場13:00)

会場 滋賀県危機管理センター (大津市京町四丁目1-1) 定員 30名程度(要申込・先着順)

申込締切 令和7年2月2日(日)

ワーク  
ショップ  
形式

参加無料  
託児あり  
(託児定員あり)

### 第1部 解題(話題提供)

在宅避難を見据えた工夫～個人や地域でできること



相川 康子 氏  
NPO法人NPO政策研究所 専務理事/滋賀県防災会議委員/  
令和元年度「滋賀県女性の参画による防災力向上検討懇話会」座長/  
滋賀県自主防災組織リーダー・防災士養成講座 講師

### 第2部 ワークショップ

在宅避難時に避難者がすべきことは何か、地域が在宅避難者にすべきことは何かグループに分かれ、それぞれの立場に立って考えます。

- ・避難者がすべきこと…(例)在宅避難時の停電、断水を見据えて何を備える？
- ・地域がすべきこと…(例)在宅避難者の健康確認方法は？



主催 滋賀県  
(問合せ先:滋賀県防災危機管理局 077-528-3432)

